

# 令和5年度 埼玉東上地域大学教育プラットフォーム(TJUP) 共同IR報告書

テーマ：「地域人口の増加」（アウトカム指標 24・25）及び  
「教育の質の向上」（アウトカム指標 26・27）について  
報告日：2023年10月27日

表記の件について調査を行いましたので、下記の通り、ご報告いたします。

## 記

### 1. 調査の趣旨

TJUPでは「地元で生まれ、地元で育ち、地元で生きていく若い世代への支援」というビジョンの実現に向け、各種、取組みの検討・実施を行っている。

今回は、昨年につきビジョンの達成状況を示す「アウトカム指標」のうち、「地域人口の増加」及び「教育の質の向上」に関する調査を行った。

### 2. 調査対象

TJUP 会員校 18 校（私立大学 14、私立短期大学 4）

### 3. 調査期間

令和5（2023）年7月28日（金）～8月22日（火）

### 4. 調査項目

#### 1)地域人口の増加に関する群

① 参加校の志願者が全体として増加しているか（2023年度入試志願者対象）（図1～5）

- ・2022年度 志願者数
- ・志願者数の出身校の内訳（埼玉・東京・以外）
- ・2022年度 志願者数の現役者数

②特定地域+埼玉県への就職が増加しているか（図6～9）

- ・2022年度 卒業生の進路

#### 2)教育の質の向上に関する群

① 新たな教育手法を取り入れているか 2022年度（図10～18）

- ・アクティブ・ラーニング科目の有無
- ・PBL（課題解決型授業）科目の有無
- ・e-ラーニング科目の有無
- ・反転授業の有無

② 卒業生の満足度が確保されているか（2023年3月卒業生対象）（図19～23）

- ・卒業生の満足度調査の実施の有無
- ・実施方法

- ・実施時期
- ・調査結果の活用
- ・卒業生の満足度の割合（％）

## 5. 調査結果・考察

### 区分1. 地域人口の増加

#### 1) 指標 No.24 (1)参加校の志願者が全体として増加しているか

○回答校数：16校（提出のあった18校のうち、非公表の2校を除く）

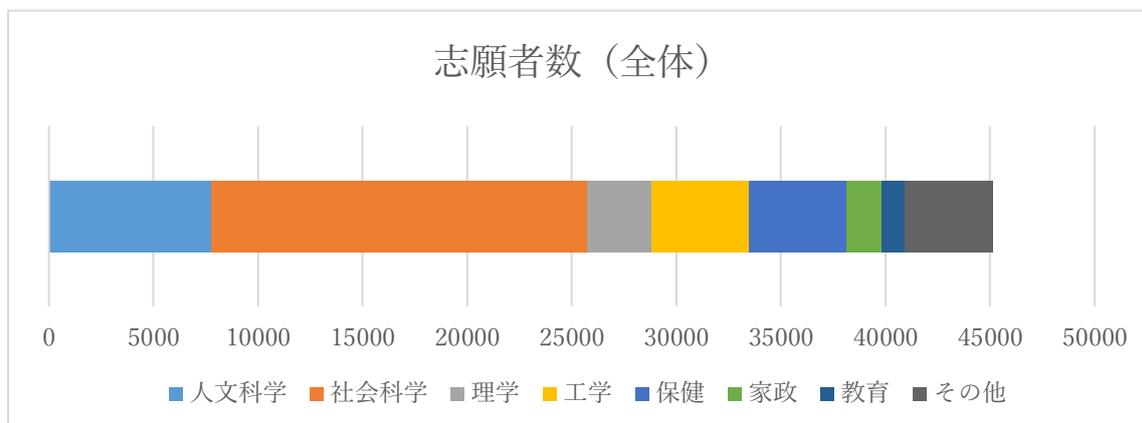
学部・学科の大分類による内訳は次の通り。（非公表のため回答のなかった学部を除く。）

人文科学	社会科学	理学	工学	保健	家政	教育	その他	計
9	22	5	4	13	2	5	3	63

#### ①志願者数（2023年度入試志願者：全体）

志願者数は合計45,148人であった。

内訳は、人文科学7,756人（構成比率17.2%）、社会科学17,989人（39.8%）、理学3,062人（6.8%）、工学4,681人（10.4%）、保健4,677人（10.4%）、家政1,667人（3.7%）、教育1,117人（2.5%）、その他4,199人（9.3%）であった。



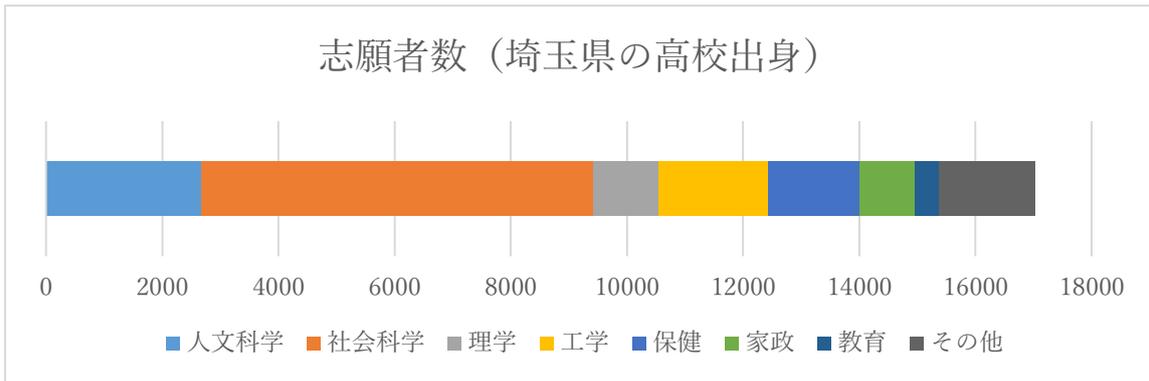
【図1】 TJUP内大学・短期大学の志願者数（2023年度全体・分野別）

2019年度からの総志願者数は、2019年度67,074人、2020年度62,681人、2021年度53,403人、2022年度45,148人であった。2022年度調査では前年比85.4%、2023年度調査では前年比84.5%となり年々減少傾向が強まっている。

#### ②志願者のうち埼玉県の高校の出身者

埼玉県の高校の出身者は合計17,025人（上記①の志願者のうち37.7%）であった。

内訳は、人文科学2,669人（構成比率15.7%）、社会科学6,760人（39.7%）、理学1,119人（6.6%）、工学1,886人（11.1%）、保健1,581人（9.3%）、家政944人（5.5%）、教育420人（2.5%）、その他1,646人（9.7%）であった。



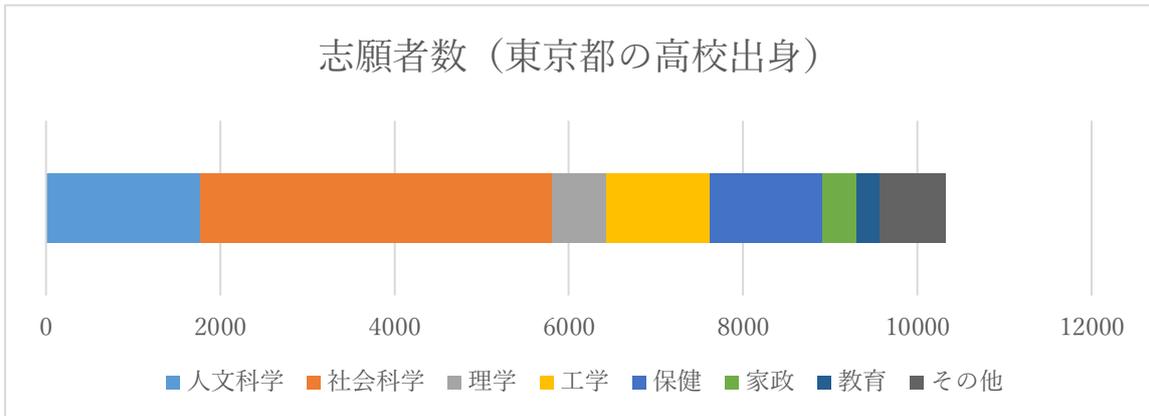
【図2】 TJUP 内大学・短期大学の志願者数（2023 年度埼玉県の高校出身者）

TJUP 内大学・短期大学に対する埼玉県内所在の高校出身志願者数は、2019 年度 23,354 人、2020 年度 20,429 人、2021 年度 18,601 人、2022 年度 17,025 人であった。2022 年度調査では前年比 91.1%、2023 年度調査では前年比 91.5%であり、後述する東京都、埼玉・東京都以外からの志願者数に比べると、減少幅はそれよりは小さいものの志願者数は 3 年連続の減少となっている。今後の傾向に注視が必要である。

③志願者のうち東京都の高校の出身者

東京都の高校の出身者は合計 10,326 人（上記①の志願者のうち 22.9%）であった。

内訳は、人文科学 1,772 人（構成比率 17.2%）、社会科学 4,035 人（39.1%）、理学 625 人（6.1%）、工学 1,184 人（11.5%）、保健 1,300 人（12.6%）、家政 389 人（3.8%）、教育 258 人（2.5%）、その他 763 人（7.4%）であった。



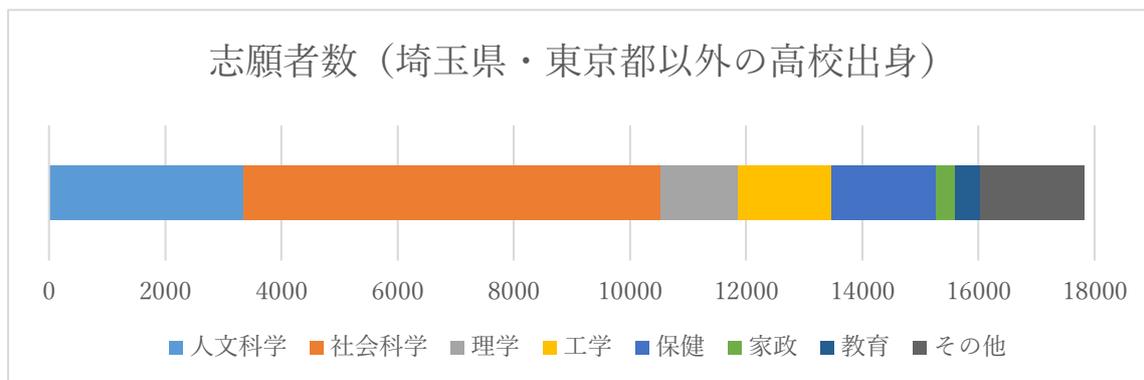
【図3】 TJUP 内大学・短期大学の志願者数（2023 年度東京都の高校出身者）

TJUP 内大学・短期大学に対する東京都内所在の高校出身志願者数は、2019 年度 15,783 人、2020 年度 16,386 人、2021 年度 12,023 人、2022 年度 10,326 人であった。2022 年度調査では前年比が 73.4%と大幅に減少、2023 年度調査でも前年比 85.9%と 2017 年度以降、増加してきた東京都内の高校生志望者が、2020 年度をピークにして大幅減少している。入試制度の変更やコロナ禍による移動制限の影響もありえるため、次年度以降もこの傾向が継続するかどうか注視が必要である。

④志願者のうち埼玉県および東京都以外の高校の出身者

埼玉県および東京都以外の高校出身者は合計 17,822 人（上記①の志願者のうち 39.5%）であった。

内訳は、人文科学 3,347 人（構成比率 18.8%）、社会科学 7,193 人（40.4%）、理学 1,318 人（7.4%）、工学 1,611 人（9.0%）、保健 1,795 人（10.1%）、家政 334 人（1.9%）、教育 434 人（2.4%）、その他 1,790 人（10.0%）であった。



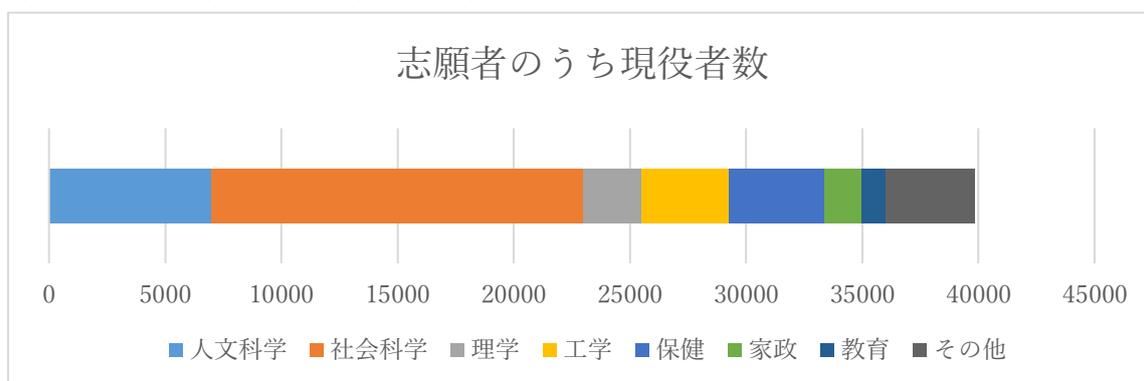
【図 4】 TJUP 内大学・短期大学の志願者数（2023 年度埼玉県・東京都以外の高校出身者）

埼玉・東京以外の高校出身の志願者数は、2019 年度 27,751 人、2020 年度 25,343 人、2021 年度 22,278 人、2022 年度 17,822 人であり、2022 年度調査では前年比が 87.9%と減少、2023 年度調査でも前年比 80.0%と 3 年連続で大幅に減少している。コロナ禍や経済状況等の変化により、遠方からの志願者数が減少している可能性がある。

⑤志願者のうち現役者数

志願者のうち現役者は合計 39,846 人（上記①の志願者のうち 88.3%）であった。

内訳は、人文科学 7,020 人（構成比率 17.6%）、社会科学 15,966 人（40.1%）、理学 2,501 人（6.3%）、工学 3,800 人（9.5%）、保健 4,086 人（10.3%）、家政 1,610 人（4.0%）、教育 1,053 人（2.6%）、その他 3,810 人（9.6%）であった。



【図 5】 TJUP 内大学・短期大学の志願者数（2023 年度志願者の現役者数）

2019 年度 53,467 人、2020 年度 52,242 人、2021 年度 45,612 人、2022 年度 39,846 人であり、2022 年度調査では前年比が 87.3%と減少、2023 年度調査でも前年比 87.4%と比率と

しては若干のプラスではあったが、全体志願者数同様に、現役志願者数も年々減少している。

## 2) 指標 No.25 (2) 特定地域+埼玉県への就職が増加しているか

○回答校数：16校（提出のあった18校のうち、非公表1校と、学部事情による1校を除く）

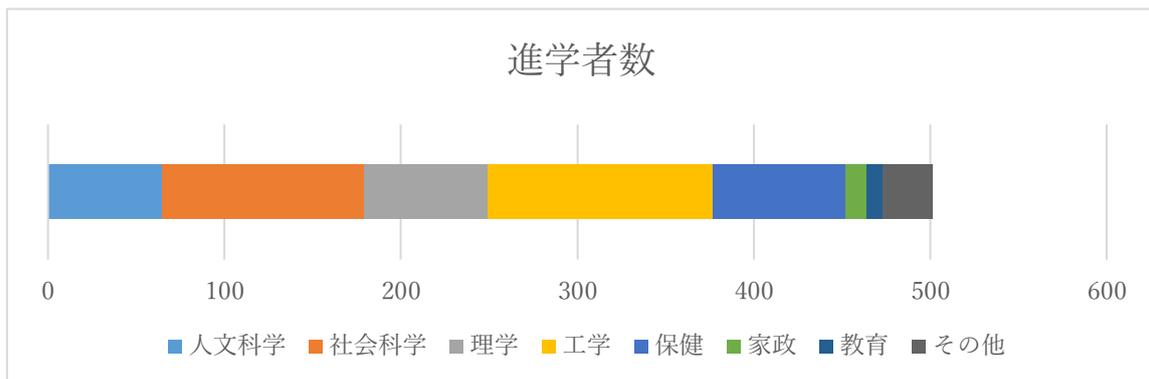
学部・学科の大分類による内訳は次の通り。（非公表、完成年度前等の理由により回答のなかった学部を除く。）

人文科学	社会科学	理学	工学	保健	家政	教育	その他	計
11	23	5	5	13	2	4	3	66

### ①進学者数

進学者数は合計501人であった。

内訳は、人文科学65人、社会科学114人、理学70人、工学128人、保健75人、家政12人、教育9人、その他28人であった。



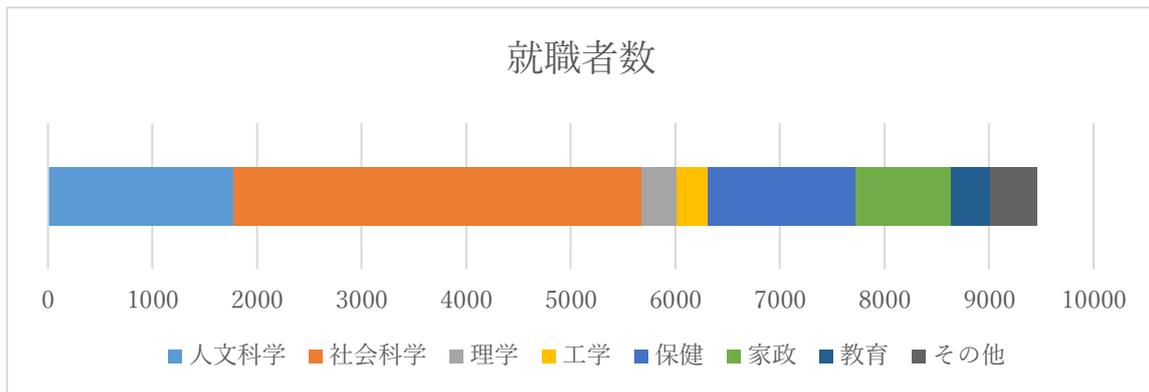
【図6】 TJUP 内大学・短期大学の進学者数（2022年度全体・分野別）

2019～2022年度 TJUP 内大学・短期大学の学生が卒業後に進学した総数は、2019年度 496人、2020年度 460人、2021年度 599人、2022年度 501人であった。2022年度調査では前年比が130.2%で大幅に増加したが、2023年度調査では前年比83.6%と大幅に減少した。2022年度調査においては、コロナ禍の影響により大学院進学者数が増えていたためと考えられるが、2023年度調査では、従前の傾向に戻っている。

### ②就職者数

就職者数は合計9,461人であった。

内訳は、人文科学1,776人、社会科学3,896人、理学344人、工学291人、保健1,417人、家政920人、教育365人、その他452人であった。



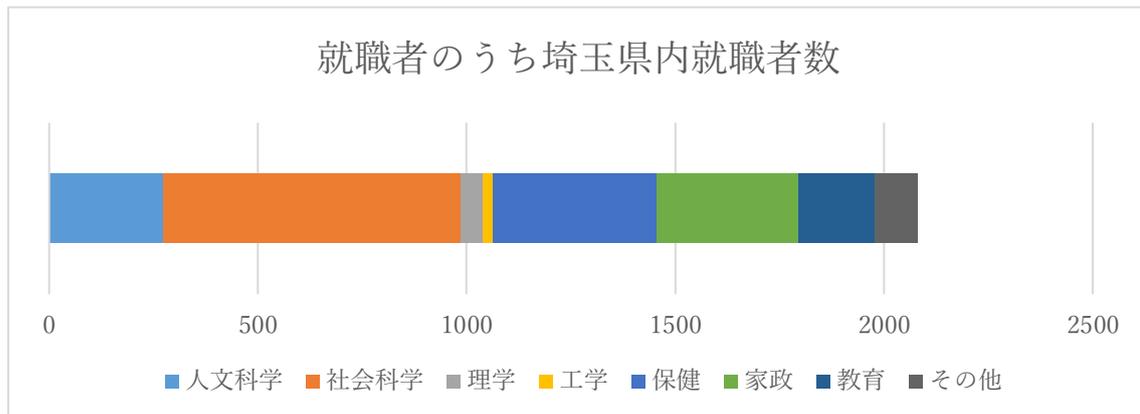
【図7】 TJUP 内大学・短期大学の就職者数（2022年度全体・分野別）

2019～2022年度 TJUP 内大学・短期大学の学生の就職者総数は、2019年度 10,062人、2020年度 9,589人、2021年度 10,030人、2022年度 9,461人であった。2022年度調査では前年比が104.6%で増加したが、2023年度調査では前年比94.3%と減少した。2023年度調査では調査対象校が19校から18校に減少したことに加え、在籍者数が減少したことの影響もあると推察する。

③就職者数のうち埼玉県内就職者数

就職者数のうち埼玉県内就職者数は合計 2,081人であった。

内訳は、人文科学 274人、社会科学 711人、理学 54人、工学 23人、保健 393人、家政 340人、教育 182人、その他 104人であった。

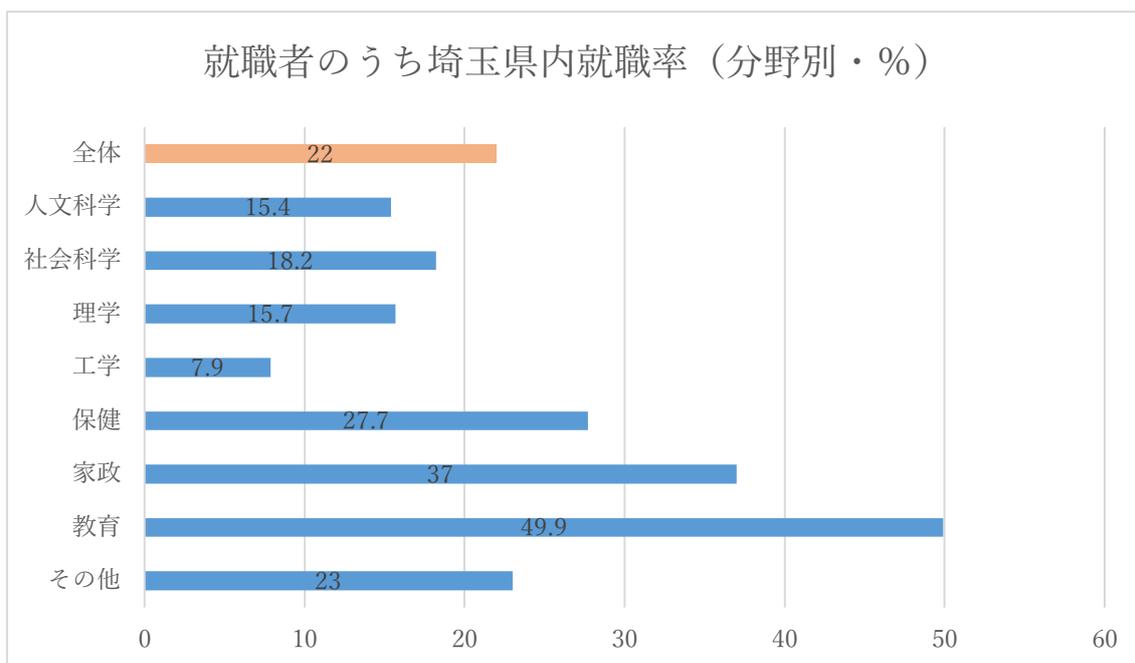


【図8】 TJUP 内大学・短期大学の志願者数（2022年度就職者のうち埼玉県内就職者数）

上記②の就職者数 9,461人に対し、埼玉県内での就職率は22.0%であった。

学問分野ごとの内訳は、人文科学 15.4%、社会科学 18.2%、理学 15.7%、工学 7.9%、保健 27.7%、家政 37.0%、教育 49.9%、その他 23.0%であった。

就職者数全体における県内就職率（22.0%）に照らし、教育は定着率が高い。次いで、家政・保健が22.0%を上回った。



【図9】 TJUP 内大学・短期大学の就職者数（2022年度埼玉県内就職率・分野別％）

大分類	進学率※	埼玉県内就職率
人文科学	3.5%	15.4%
社会科学	2.8%	18.2%
理学	16.9%	15.7%
工学	30.5%	7.9%
保健	5.0%	27.7%
家政	1.3%	37.0%
教育	2.4%	49.9%
その他	5.8%	23.0%

※進学率＝進学者÷（進学者+就職者）で算出。

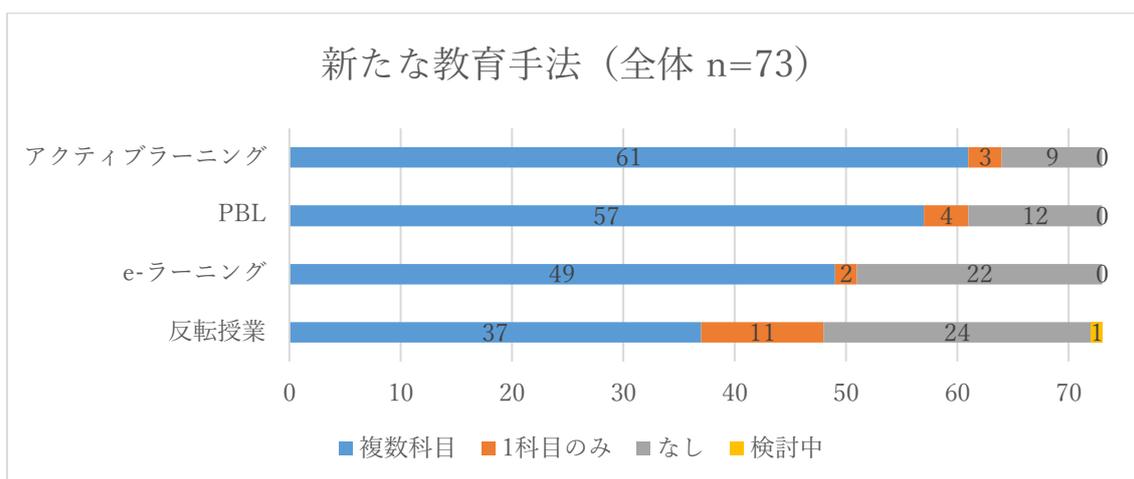
就職者数のうち埼玉県内での就職は、2019年度 2,148人、2020年度 2,151人、2021年度 2,367人、2022年度 2,081人であった。全体の就職者数に対する埼玉県内の就職率で見ると、2019年度 21.3%、2020年度 22.4%、2021年度 23.6%、2022年度 22.0%であった。大きな変化はないともいえるが、2022年度ではその比率が若干落ちており、継続的な調査が必要である。

## 区分2:教育の質の向上

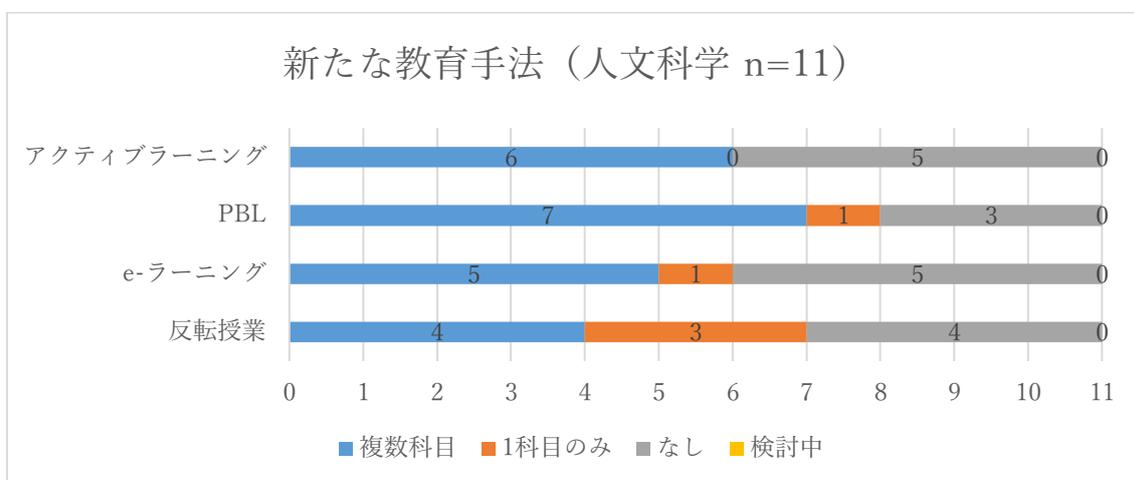
### 3)指標 No.26 (3)新たな教育手法を取り入れているか

学部・学科の大分類による内訳は次の通り。(募集停止・完成年度前等の理由により回答のなかった学部を除く。)

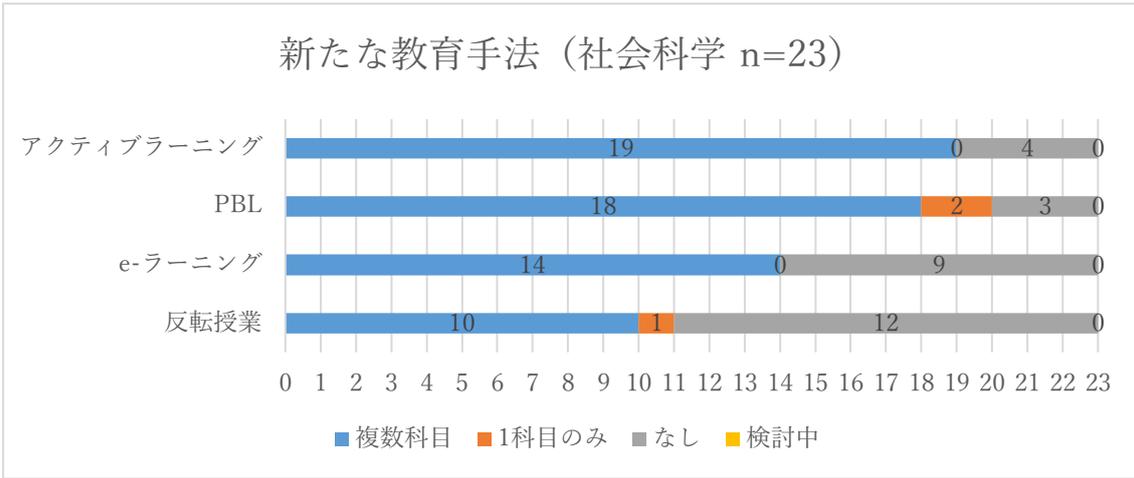
人文科学	社会科学	理学	工学	保健	家政	教育	その他	計
11	23	5	4	20	2	5	3	73



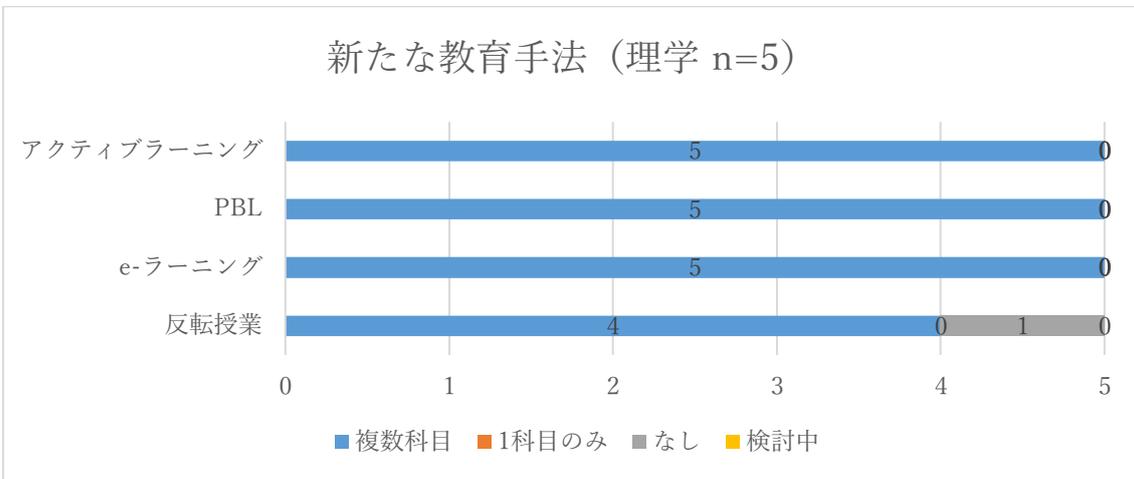
【図 10】 TJUP 内大学・短期大学の新たな教育手法 (2022 年度全体科目)



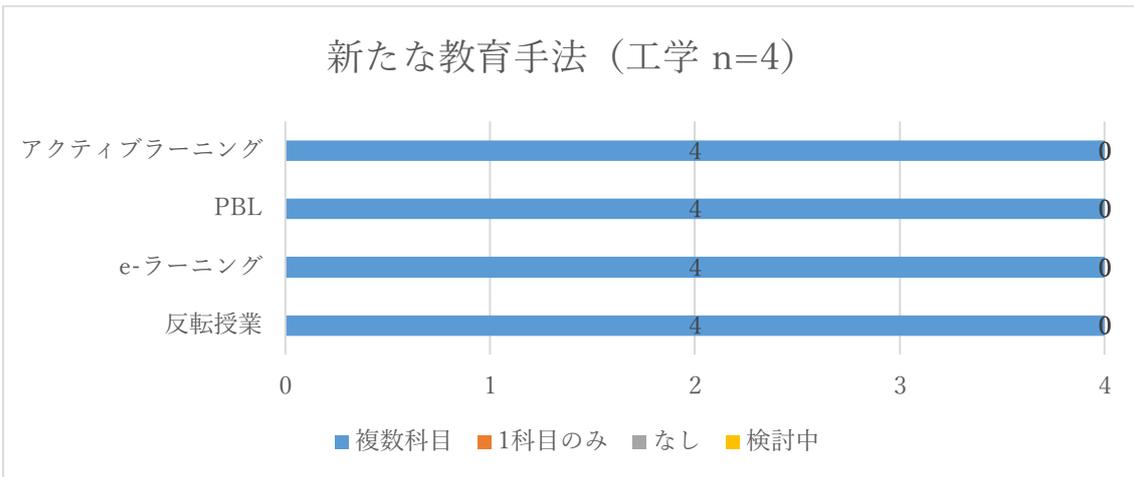
【図 11】 TJUP 内大学・短期大学の新たな教育手法 (2022 年度分野別・人文科学)



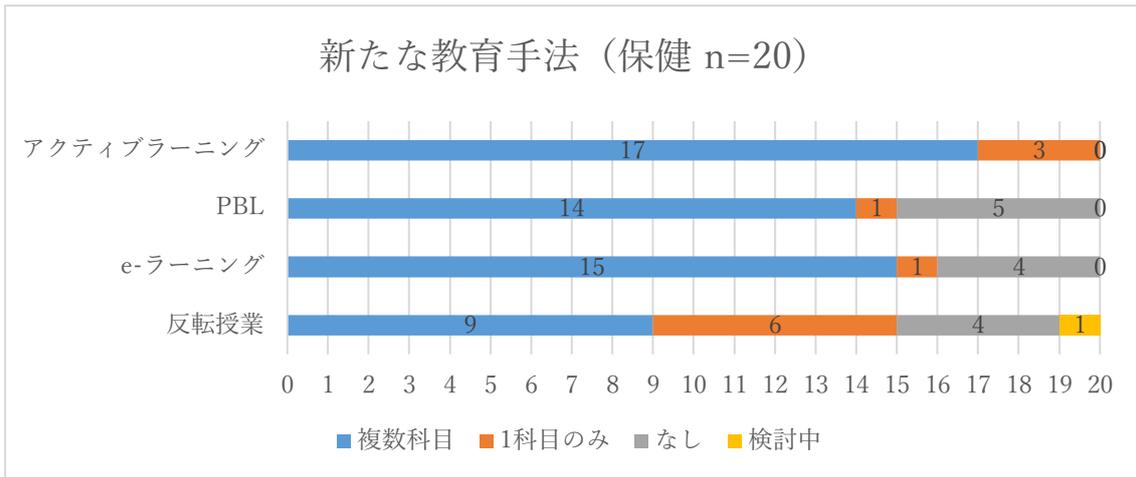
【図 12】 TJUP 内大学・短期大学の新たな教育手法（2022 年度分野別・社会科学）



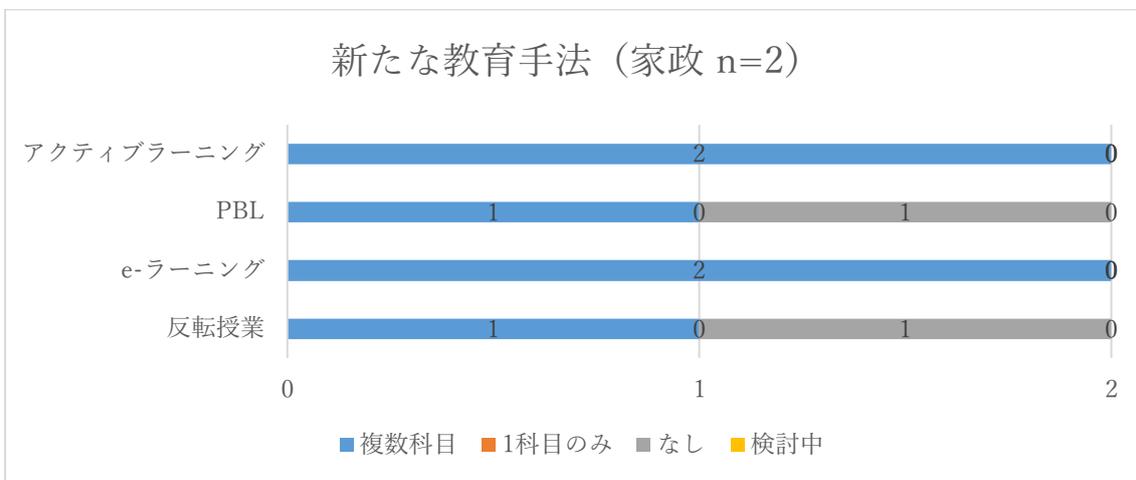
【図 13】 TJUP 内大学・短期大学の新たな教育手法（2022 年度分野別・理学）



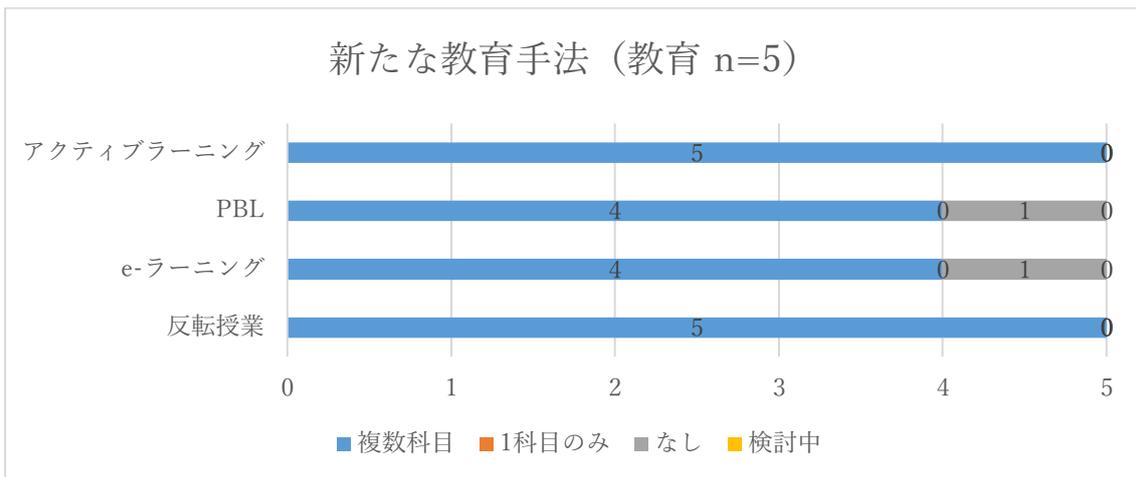
【図 14】 TJUP 内大学・短期大学の新たな教育手法（2022 年度分野別・工学）



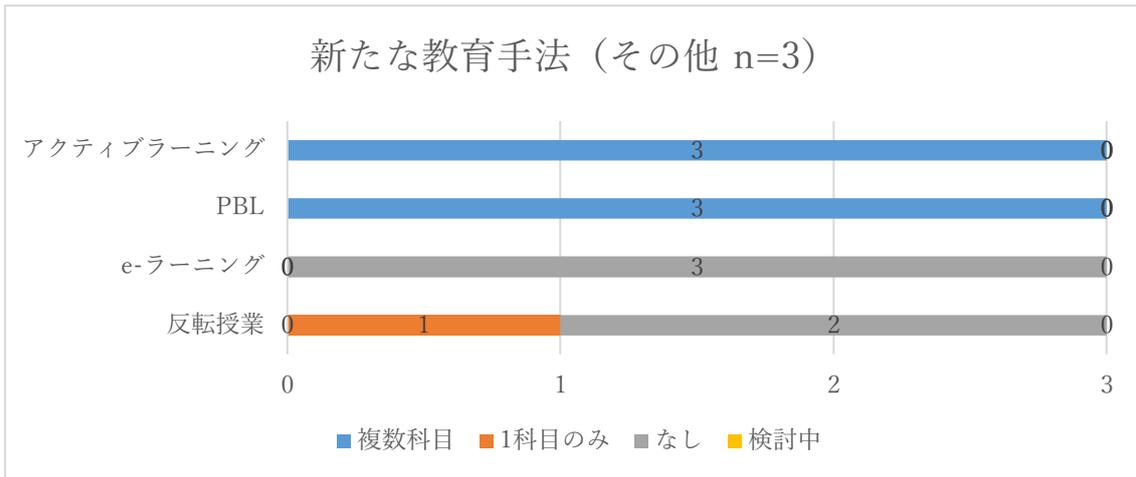
【図 15】 TJUP 内大学・短期大学の新たな教育手法（2022 年度分野別・保健）



【図 16】 TJUP 内大学・短期大学の新たな教育手法（2022 年度分野別・家政）



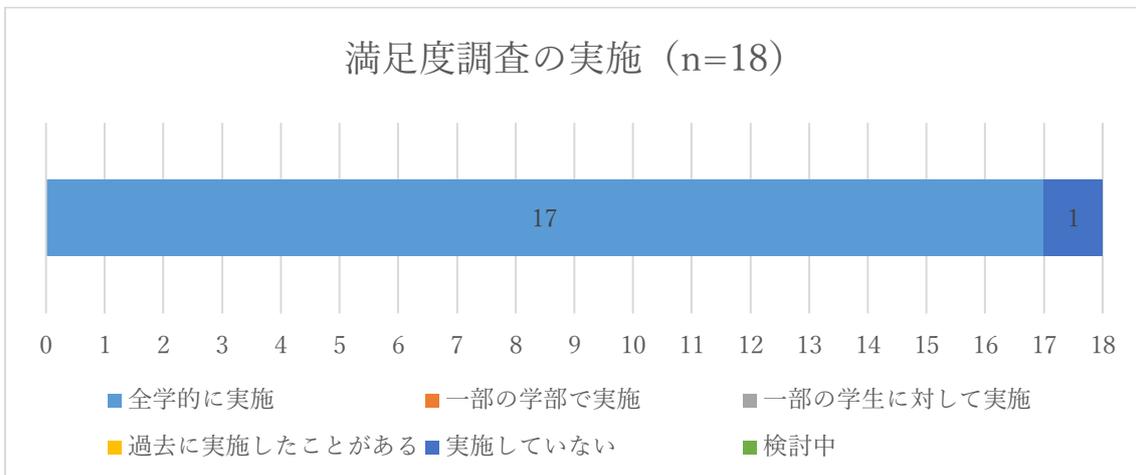
【図 17】 TJUP 内大学・短期大学の新たな教育手法（2022 年度分野別・教育）



【図 18】 TJUP 内大学・短期大学の新たな教育手法（2022 年度分野別・その他）

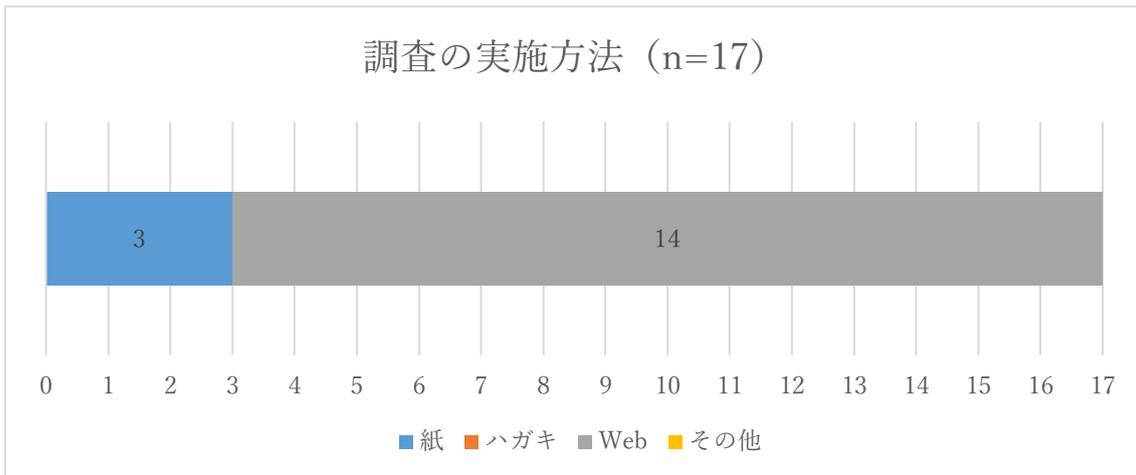
前年度同様、アクティブ・ラーニングはほとんどの大学・短期大学において複数の科目で実残されているが、一部取り入れられていない大学もある。学部・学科で授業形態が違うので実践できない大学があるのは必然の結果といえる。PBL、eラーニングは横ばいで過半数の大学・短期大学において実施されている。反転授業は 2019 年度からは増加を示しているが前年度との変化はほぼ見られない。

4) 指標 No.27 (4)卒業生の満足度が確保されているか

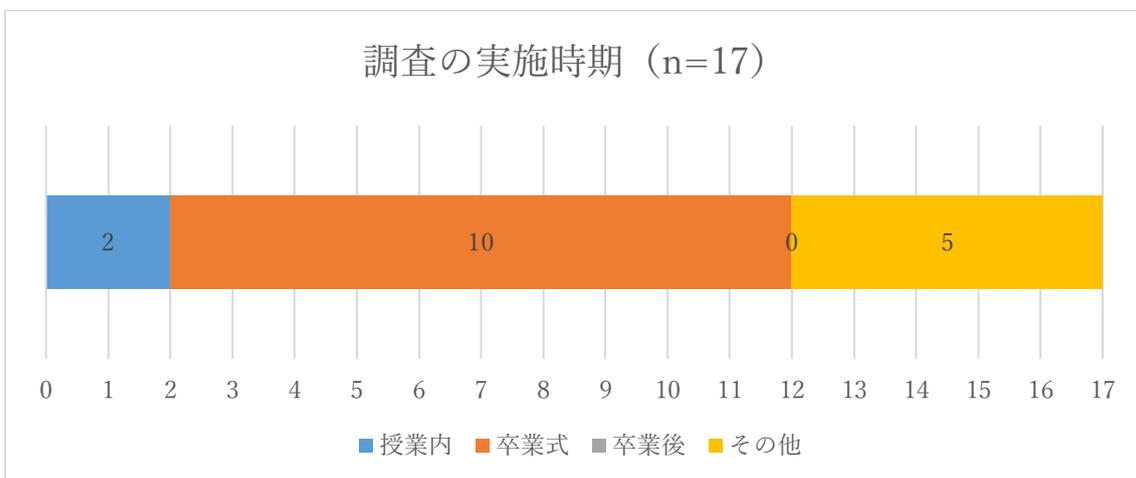


【図 19】 TJUP 内大学・短期大学の満足度の調査（2022 年度全体）

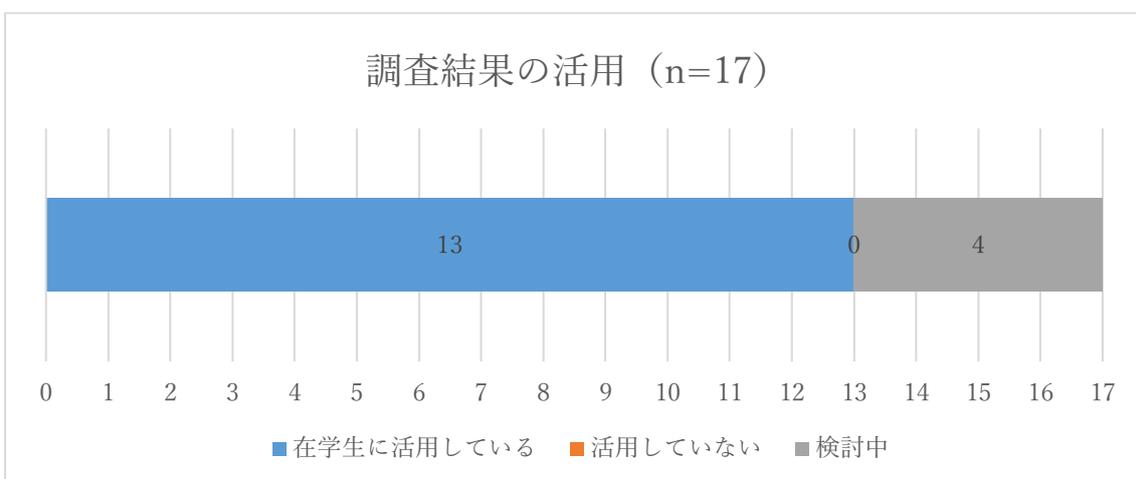
これ以降は、満足度調査を「実施していない」と回答した1校を除く17校が対象。



【図 20】 TJUP 内大学・短期大学の満足度の調査 (2022 年度調査の実施方法)

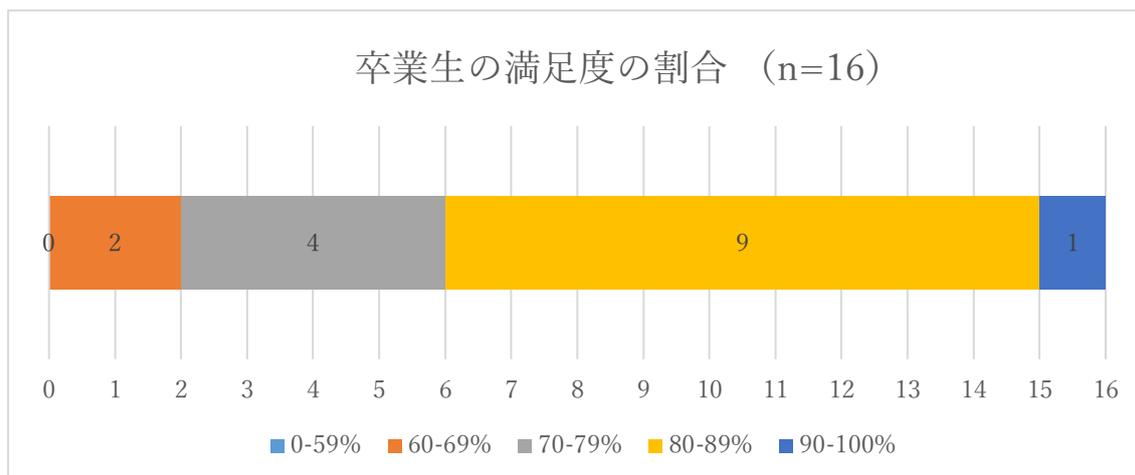


【図 21】 TJUP 内大学・短期大学の満足度の調査 (2022 年度調査の実施時期)



【図 22】 TJUP 内大学・短期大学の満足度の調査 (2022 年度調査結果の活用)

卒業生の満足度の割合は対象校=16校。(調査実施校のうち1校は集計不可とのこと。)



【図 23】 TJUP 内大学・短期大学の満足度の調査 (2022 年度卒業生の満足度の割合)

満足度の調査を全学的に実施しているのは、回答のあった 18 校において 17 校であった。2017 年度 12 校、2019 年度 14 校、2020 年度 15 校、2021 年度 18 校であった。実施の方法として Web を利用した学校が増え 2020 年度 11 校、2021・2022 年度 14 校であった。紙を用いたのは 2017 年度 10 校、2019 年度 8 校、2020 年度・2021 年度 4 校、2022 年度は 3 校となっている。卒業生の満足度が高い (満足度 80%以上) 大学が過半数以上あった。

#### 【まとめ】

本調査においては、一部大学における定員管理の厳格化による受入学生数の減少、コロナ禍による学生の就学環境や大学における教育環境の変化等の外的環境の影響を除外することはできず、ここ数年間の変化傾向のみから、その根本的な原因について確たる分析を加えることは困難である。ただし、少なくとも現時点での状況を集計することで、一定の仮説をもって施策に反映させることも可能であろう。今後も継続的な調査が望まれるところである。